



安全衛生委員会 広報誌
発行者/株式会社イービーエム
編集者/安全衛生委員会

セーフティファースト



ういう質問をする父母も、また答えに窮する教師も情けなく思いました。日本はどこで教育が間違っていたのでしょうか、子供の教育より親の世代の教育をしなければならぬ気がします。常に感謝の気持ちを忘れない世の中であつてほしいと思います。
安全衛生とはかけ離れた話題になつてしまいました。

委員長挨拶
さらなる継続へ
安全衛生委員長

赤間専務

安全衛生委員会の積極的な取り組みと皆様のバックアップにより、平成十五年十月二十四日の労災事故から今日までの二年五ヶ月間「事故ゼロ」を継続していることに厚く感謝申し上げます。

しかし、残念ながら「安全運転の誓い」を実践してきた中、今年になって二件もの交通物損事故が発生し、ほかに労災一歩手前の事案もありました。
「事故は必ず起きるものだ。」という本質のところを意識の中で薄れつつあるようで極めて大きな危惧を感じております。

このような状況から今年は「事故ゼロの再出発」をテーマに掲げ、労災ゼロへの全員の徹底した意識の共有、そして実行の共有を図つていきたいと思います。



文化センター 業務課所属
打撲 休業には至らず



検証

過去の災害事例

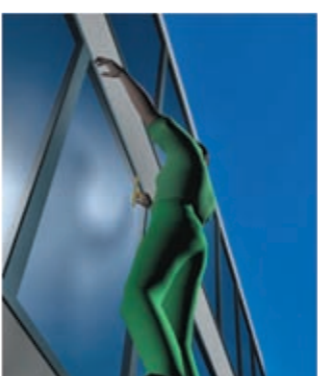
ダストモップの埃を掃除機で取り除こうとする時、ウォンドを壁に立てかけ掃除機を準備し、モップを足で固定しようとした。掃除機の電源が入っていたため振動によりウォンドが倒れ足の甲に当たったもの。
対策 立て掛けなければよい。この対策に皆さんどう思うでしょう。簡単なことか、難しいことでしょうか。人間は様々なことに対して「ちかみち」を考えます。それが合理的で安全であるのなら「改善」されたとなりますが、リスクを伴う近道であれば行動に

移すかどうかためらいます。本人が思いついた作業や手順というのは清掃の仕事には往々にしてあります。この場合
「これ倒れるかな?」
と、いう思いより
「これですぐに
掃除機掛けが出来る!」
と、いう思いが勝つたのでしよう。いかに危険と向き合うか、危険に対して敏感にならなくてはなりません。

レポート

現実的な対策への見直し
業務課本部

皆さんもご存じのように墜落の労災事故以降、屋根上での作業は原則禁止となっております。しかし多様な建築様式の現実からガラスを清掃する際には上らなくてはならない場面が多々あります。業務課本部としては昨年より安全衛生委員会に諮り判断を仰いでいる状況です。具体的には滑りにくいシートのようなものを敷き作業するなど検討しており、やむを得ない場合は個別に対策を施して作業する方向で話を進めています。
業務課 粒木直仁編集委員



佳作に入選された方

論文

今井勝博 業務課

大江 清 設備管理課

遠藤光男 設備管理課

遠藤光男 設備管理課

齊藤春枝 業務課

そのほか標語に
井上孝・小池郁子・鈴木洋子の3名が応募されました。

安全衛生の言葉
K Y T

前回は大きな事を書きました
が、実際はどのようなことをするのか説明します。

K Y T とは、危険予知訓練の頭文字からなる言葉で、仮想のイメージ(画像)から危険要因を見つけて出す。若しくは、その場面からどのような事態が発生するのかを想像するものです。例えば、このような画像を使います。

「こんな対策をしている。」
というものがあれば使用前・使用後の写真を撮っていたら、社員の方に広く知っていただけるよう採りあげていきたいと思っています。

今年春の訪れは早いのでしょうか、雪国の春ほど待ち遠しいものはありません。

編集 業務課 石原義一

2006.03.07

おじゃましま〜す。みんなの職場



第四回
米沢市市民文化会館

エビーエムは米沢市市民文化会館開館以来、舞台照明設備の操作業務を含め施設の管理業務を受託しています。
舞台における業務には様々な危険が伴います。全てのお客様が、会館を安全で快適に利用して頂く為に、これまでの経験から培われてきた「危険予知」そして事故を未然に防ぐ「安全配慮」及び「安全対策」を講じ、舞台に携わる技術者全てが「米沢市市民文化会館での事故は起こさない」というポリシーのもと、日々、安全管理に取りこんでいます。

紹介・写真
営業課 田口浩之



来年度から、米沢市市民文化会館の指定管理者として、施設管理だけでなく、施設の運営をさせていただくことになりました。
私どもは、会館運営の柱に「CD」を掲げています。「CD」とは「顧客感動」を意味します。期待以上のサービスでお客様に感動してもらおうということです。このCDのもと、どのようにしたらお客様が、喜び、感動するのかわかると、日々考え、実行し、誰もが気軽に

去年十一月九日労働安全衛生大会が行われ、労働災害防止論文・標語の優秀作品受賞者への表彰式が行われました。
我が社からは写真の3名が論文の部で表彰されました。
「大会に参加して、企業全体の、そして、各自一人ひとりの安全意識の高揚が大切な事を、改めて認識しました。今後は、身の回りの小さな防災対策を一つひとつ具現化して、無災害継続に努力して行きたいです。」
コメント 業務課 五十嵐副主任

昨年十一月九日労働安全衛生大会が行われ、労働災害防止論文・標語の優秀作品受賞者への表彰式が行われました。
我が社からは写真の3名が論文の部で表彰されました。
「大会に参加して、企業全体の、そして、各自一人ひとりの安全意識の高揚が大切な事を、改めて認識しました。今後は、身の回りの小さな防災対策を一つひとつ具現化して、無災害継続に努力して行きたいです。」
コメント 業務課 五十嵐副主任

論文発表 「労働災害防止を考える」



この場面からどのような危険が起こりうるのかを数名程度で意見を出し合います。こんな画像をK



これは実際に起こった死亡事故事例です。想像できましたか? 数名の意見から一番重要だと思われる危険要因を取り上げ、「○○○○を注意しよう!」と、全員で呼称する訓練なのです。
編集後記
人を引きつけるものを・・・
編集を担当して二回目となります。前回は文字の間隔も広く、画像も大きかったのでA3の紙面に対して「間」がありました。今回の出来はいかがでしょうか? 今後ともさまざまな手段で画像を多く使う広報誌にしていきたいです。皆さんの職場でも
「こんな対策をしている。」
というものがあれば使用前・使用後の写真を撮っていたら、社員の方に広く知っていただけるよう採りあげていきたいと思っています。
今年春の訪れは早いのでしょうか、雪国の春ほど待ち遠しいものはありません。
編集 業務課 石原義一
2006.03.07